

令和元年度第2回 尼崎市いじめ問題対策連絡協議会（要旨）

日時 令和2年1月14日(火) 15時00分から17時00分まで
場所 尼崎市立すこやかプラザ 多目的ホールA・B
出席者 委員15人（代理出席含む。）

会議要旨

1 開会

出席状況等の確認

2 協議事項

(1) 尼崎市立学校の平成30年度いじめの認知状況等について **資料1**

事務局より、資料1に基づき説明があり、その後、尼崎市教育委員会事務局いじめ防止生徒指導担当及びこども教育支援課から、実施中のいじめ対策のための取組みについて説明・報告があった。

(2) いじめ対策のための取組について

事務局より、議題の趣旨の説明があった後、各グループ（A～C）に分かれてワークショップを実施した。

ワークショップの実施内容

- ① 第1回で出た「いじめ問題の未然防止・早期発見のためにできそうな取組」の中から、各自で特に重要と思った取組を抽出
- ② ①で出た取組について、優先順位をつけ、また、「行政・学校」「地域・家庭」「連携」のどの区分が実施するかを各グループ内でディスカッション
- ③ ②でまとめられた意見を基に全体発表

*各グループの意見

(Aグループ)

Aグループでは、学校関係の項目が多くなりました。まず、「情報共有」ということで、教師間で情報共有が大事だということになりました。また、教師同士で「言いにくい関係」はダメだという意見があり、失敗した場合に責められたりしないように黙ったままにいるということがあってはいけないので、やはり、話しやすい環境というのが大事だということになりました。

また、そのためには「人員確保」が必要で、「時間的に余裕がある」、「授業がない」先生などの人員が増えることにより、「時間」が生まれ、忙しくない環境の中でケアがしっかりとできるのではないかと思います。

続いては、「子どもたち」です。まず、活躍したり、自己肯定感が高まるような「居場所」を作っておく必要があるのではないかと思います。また、それらを実現していくためには、教師一人ひとりのスキルアップが必要になってくると思います。「スキルアップ」と言っても、研修や講義などを受けたらスキルアップしたような気がするのですが、そうではなく、曖昧な表現になりますが、「センス」を磨いたり、「心の温かさ」を高めるといった『人間性』の部分のことを指しております。どのようにして学んだらよいのかという部分については、いろんな人と出会ったり、いろんなことに共感したり、感動したりといったようなところで磨かれていくのではないかなと思いました。

優先順位が「中」のところでは、子ども自身の問題解決能力などが必要なのではないかという意見がありました。やはり、上手に対応し切れない子どもが増えてきているなということを話し合いました。

「子供向けの研修」というのもあり、これは教師が授業の中でやっていけたらよいと考えていますが、そのためには教師のスキルアップがいるのだろうと、優先順位が高いと思った方に戻っていきまので、やはり、そういったことが必要なのかなと思いました。

また、小中学校の連携で、情報などを共有していくことで幼少期からの育成も大事だと思いました。優先順位が「低」のところでは、「研修」が入っています。

『連携』の優先順位が「高」のところでは、情報共有が必要じゃないかという話し合いになりました。そのためには、地域の方や関係機関の方々と関係性が築けていることが必要だと思えます。

次に「中」のところでは、「気付く能力」「良いところを見つける」「声をかける」など、このあたりの内容が、行政や地域といったカテゴリに関わらず、そのような意識が必要なのではないかと思えます。

『家庭・地域』のところで一番大事なことは、学校と強くつながりを持っていただけたら、地域と学校と家庭での連携がしやすくなるということ、2番目として、「家庭力を磨く」ということで、「保護者が子どもに対してパワハラ発言をしない」とか、「しっかりコミュニケーションを取る」などがありましたが、これについても誰が指導していくのかという部分が課題となりました。

「中」のところでは、相談できる場所とかがあれば良いという意見がありました。その他には、地域の方々に子育てに関わろうという意識を持っていただくことも大事だという意見がありました。

(Bグループ)

「行政・学校」の区分では、まず、「学校の先生たちが忙しすぎる」ということで、多忙なことにより、学校の先生が多忙でなければ見えてはいるはずのものが、見えにくくなっているのではないかという意見があり、そうだとすれば、その多忙さを解消してあげなければならないということも出ておりました。そして、先生たちの多忙さを減らすことで心のゆとりが生まれ、情報共有などがより、密にできるのではないかということになりました。若手の先生も増えてきておりますので、ベテランの先生と情報共有を行うことで、指導力の向上やいじめの芽を摘み取るための「見方」などを学ぶことができると思い、優先順位を上位にしております。

情報共有をしたり、先生たちの多忙さを減らすためには、学校の中の組織づくりが大事だと考えました。先生方一人ひとりで持っている仕事もありますが、それをチームとして取り組んでいき、悩まない、抱え込まない、そのためには、組織としてチームとして取り組んでいくことが大事だと思えます。さらには、研修を積んでいくことで、子どもたちへの指導の力をつける、ただし、ここでいう研修は「子どもへの研修」です。いじめの定義についても、大人ですら、従来のいじめの定義からなかなか離れられない場合もありますので、子どもたちの中でも「いじめとはどんなものか」ということを学ぶ機会も学校では必要ではないかということで、優先順位の真ん中に入れております。

そして、その下の順位としては、「いじめかどうか」という微妙なラインの学習や研修、教育相談、その他にはネットパトロールということで、学校でいくら学習を積んでも、子どもたちがスマホやパソコンを使ったネットの中でのカキコミについては、どうしても学校では見えにくいものがあります。家庭の保護者の方にとっても同じです。そのため、行政のネットパトロールの力も借りながら進めていくことで、様々な視点で子どもたちを見守っていくことができるのではないだろうかということになりました。

「地域・家庭」の区分では、「居場所づくり」が一番優先順位が高くなりました。「自分は一人じゃない」、「ここにいれば誰かにつながれる、助けてもらえる」というものを作っていき、もちろん学校でも、家庭でも同じです。そして、地域でもそのような居場所づくりが優先順位の上位として挙がりました。

その次に、「パワハラ発言をしない」とか、「家庭でコミュニケーション」、親が見守るということで、コミュニケーション能力は「人とつながる」という意味では高めていてもらいたいと思いました。

「連携」の区分では、学校でも、家庭でも、地域でも共通ということで選んだのですが、「相談できる体制づくり」ということで、STOPitなどの情報機器を使ったものも含めて、何か困ったことがあったら相談できる、話を聞いてもらえるような環境が必要だという意見が一番多かったです。

その他には、大人が子どもたちを丁寧に見守っていく、そして、良いお手本を見せていくことが大事なのではないかと思います。

また、横のつながりだけではなく、縦のつながりのことも挙がりました。家庭・地域においても体験活動を行い、自尊感情や自己肯定感といった自分を大事にする心を育ててほしいと思います。

それから、「つながり作り」ということで、子どもとの関係づくり、保護者との関係づくり、保護者を巻き込んで活動するといったところで、やはり、子どもはいろんな場所で生活しておりますが、尼崎の子どもは尼崎の大人が育てていかなければならないんだと思います。もちろん学校では、担任の先生がクラスの子を育てますが、学校に通う子は学校の先生みんなで育てていくものであり、また、学校だけでは、家庭だけでは、地域だけでは難しいところがあるので、我々大人がこういったつながり作りを意識的にいき、そして、何かあったときはゲートキーパーが子どもの命を守るための門番として活躍していくということが必要なのだと思います。

他のグループと優先順位に多少の差はあるものの、いずれも、子どもたちのより良い成長のため、健全な育成のためということでは、やはり共通しているんだなと感じました。

(Cグループ)

他のグループとほぼほぼ同じ内容かなと感じておりますが、その中で、Cグループは枚数で優先順位を付けていき、さらに、共通する内容もまとめて順位を付けていきました。

まずは、行政でも学校でも実施してもらっている「スマホ教室」、結構開催してもらっているのですが、やはり、中身が日進月歩かなと感じます。それと、子どもたちが、スマホの使い方に追いついていないのかなと思います。

次に「居場所づくり」、これも大切だと思うのですが、自分が合うところや合わないところがあると思います。自分では、家が心地よいと感じていても、誰かは心地よい場所と感じていないというようなことが考えられます。心地よさは選択肢がいっぱいある中で作っていくべきだという意見がありました。

あとは、感度を高め、先生が気づく部分を少し増やしていけたらと思いました。これには、先生方の多忙さがあるので、時間を作っていた中で、そういった部分を解決できるのではないかということにもつながってくると思います。また、情報の共有ということで、小さなことでもいいので、共有できたらある程度目が光るのではないかなと思います。

やはり一番大切なことは人間の関係性につながってくるということで、優先順位が高いところをまとめております。

次に「連携」の区分では、学校との共通の部分では「居場所」や「情報共有」だと思います。また、保護者との関係ということで、「学校と保護者」「地域と保護者」が上手く関わっていけたら良いかなと思います。あと、家庭でのコミュニケーションは最重要なのかなと思います。共働きの世帯も多くなってきており、夜の少しの時間しかないと思いますが、しっかりとコミュニケーションはとらなければならないと感じております。

また、共通して言えることは、地域、家庭、学校、行政が話しやすい環境を作っていくことが一番大切だろうと思います。やはり、話しやすい環境が無いと何も伝えられない、そして、ひきこもってしまうという悪循環になるので、そうならないように学校でも地域でも家庭でも話しやすい環境を作っていくということで、結果的には人間性の構築ということにつながるのではないかと思います。

(3) その他

事務局から会議内容を尼崎市ホームページにて公開することを説明のうえ、了承を得た。

以 上

行政・学校

107 ネット・メール

12 後援者の学習

70 教育相談を
おこなう

研修

93 学ばじめに
いじめ定義を
子どもと共有

17 教員の研修
(セミナール)

18 校内で
子どもの
研修

71 先生が一人ひとりに
子どもと向き
合う

3 保健室を相談
できる場所に

86 止めどなく
9-5時に
おこなう

63 一人ひとりに
な・体験作り

78 チームの早い
対応

73 いじめ防止委員会
報告のため
あつち ×
心配り

情報

35 定期的に
いじめアンケート
をとる

40 活動の
アクト

43 小さな事
情報共有

60 いじめの芽を
つむぎ取る
向上

37 教師間の
情報共有

41 小中での
情報共有

51 いじめ被害者
生徒達を作る

82 各学年に
担当者置く

16 教員の負担軽減
でいじめ対策

9 ワズ・学校での
活動力と児童との
人間関係づくり
でいじめ対策

57 学校の先生
の仕事を減らす

27 先生の手配
と対応
67 先生の仕事
を減らす

連携

20 ネットワーク
研修

48 相互の
取り

94 子どもの関心
を高める
こと

92 保護者の
関心

30 早期発見のため
保護者を巻き
込む

体験

つながり作り

7 活動の場
をつくる

54 いろいろな
体験活動
(おこなう)

95 子どもの
変化に
対応

91 変化の受け
共有

14 SNS対策の
授業を行う

1 多様な
居場所

50 子どもの
居場所
(おこなう)

98 多様な
地域・団体
と連携

104 地域関係
機関の
連携

92 地域関係
機関との
連携

10 パワハラ
発言
防止

11 家庭で
コミュニケーション

99 親子
関係

26 学校内で
子どもの
自主的
活動

15 大人が
11の
学び

44 希望と
把握し
相談
する

1 多様な
居場所
づくり

5 居場所
づくり

76 保護者
との
連携

8 各学年
の
活動

49 困り
相談
する

102 子どもの
相談
する

25 保護者
との
連携

81 多様な
生活に
対応
する

46 保護者
との
連携

地域・家庭

B

11

行政・学校

58 英検のネット
集約の第三者に
任せる

101 校内外地域の
人とのつながり
を強化する

82 担当者選考
(各学校)

59 体験活動で
取り入れる

31 児童の話し
時間確保

83 生徒の意見
見込を保護者に
連絡

56 英検のネット
を初年度から
具体ネット
向かおう

7 子供は
保護者の
協力に
活躍できる

61 いじめ防止
条例の
作成

70 学校に
関係する
人との
つながり

25 学校・地域
関係
強化
1093

90 人増やし
相談できる
体制づくり

55 連絡の
手段
強化
1093

12 話し合い
の
場

45 秘密を
守る
1093

80 相談
体制
づくり

51 いじめ
防止
体制
づくり

68 学校
の中
に
関係
体制
づくり

49 匿名
相談
体制
づくり

35 いじめ
防止
体制
づくり

33 ネット
活用
体制

91 ネット
活用
体制

17 ネット
活用
体制

67 ネット
活用
体制

26 学校
での
課題
解決
体制

18 ネット
活用
体制

89 ネット
活用
体制

37 ネット
活用
体制

109 ネット
活用
体制

2 ネット
活用
体制

91 ネット
活用
体制

92 保護
者の
関係
づくり

90 地域
関係
づくり

63 学校
関係
づくり

連携

44 関係
強化
体制
づくり

104 地域
関係
づくり

65 関係
強化
体制
づくり

32 SOS
相談
体制
づくり

62 ネット
活用
体制
づくり

69 関係
強化
体制
づくり

49 関係
強化
体制
づくり

76 ネット
活用
体制
づくり

5 ネット
活用
体制
づくり

41 ネット
活用
体制
づくり

地域・家庭

94 ネット
活用
体制
づくり

105 地域
関係
づくり

84 地域
関係
づくり

74 ネット
活用
体制
づくり

11 ネット
活用
体制
づくり

99 ネット
活用
体制
づくり

98 ネット
活用
体制
づくり

95 ネット
活用
体制
づくり

10 ネット
活用
体制
づくり

27 ネット
活用
体制
づくり

低

C

高